

県民のあゆみ

山形県広報誌
令和5年5月号

県民のあゆみ

No.633

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページアドレス <https://www.pref.yamagata.jp/>



| 今月の表紙 |

やまがたカーボンニュートラル大使の酒田光陵高校「光陵省エネ電工チーム」の皆さん。令和4年度は校舎駐輪場の屋根に太陽光パネルを設置し、発電した電気を夜間照明に利用する活動などに取り組まれました。今年度も生徒たちが活動を展開する予定です。(撮影協力：酒田光陵高等学校(3月撮影))

- 2 | 県民の皆さまへ 知事メッセージ
- 4 | 特集 令和5年度当初予算について
- 8 | 奏であう人 身近でできる運動で体も心も元気に
- 16 | 潜入レポート! 山形県環境科学研究センター



どうなってるの!?

やまがたけんかんきょう か かくけんきょう
山形県環境科学研究センター

山形県の空気のきれいさは全国でトップクラス。
どうやって調べているの?

空気のよごれを24時間365日確認!
県内に11箇所ある大気測定施設

山形県は、PM2.5と呼ばれる空気中の小さなホコリが少ない、全国でも有数の空気のきれいな県です(平成28年度から令和元年度は全国第1位、令和2年度は第2位*)。

空気がきれいだと聞くと、呼吸するだけで嬉しくなります。さて、目に見えない「空気のきれいさ」は、どうやって調べているのでしょうか? 実は、県内11箇所に設置された大気測定施設で、24時間365日、周囲の空気のよごれを調べ、その情報を環境科学研究センターが集め監視しているのです。

PM2.5は、物や燃料を燃やすことで増えるほか、海外から風に乗って運ばれてくるものもあります。それらが少ないことはきれいな状態を表し、空気が澄んでいるという証しなのです。このほか、同センターでは川や工場排水の水質、ダイオキシンなどの有害物質、さらには動物や植物など、さまざまな調査を行い、環境を守るためにちよつとした変化も見逃さないようにしています。

※国立環境研究所環境数値データベースをもとに集計



アンテナのようなところが空気を取り込む吸気口!



測定施設の中には空気のよごれを調べる精密機器が!



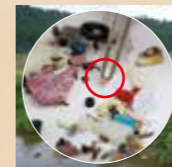
環境科学研究センター
わたなべ かずふみ 主任専門研究員

食のおいしさで知られる山形県ですが、それらの食べ物は、きれいな水や空気など、豊かな自然に支えられています。皆さんが住む街、近くの山や川はどうでしょうか。これからも皆さんとともに、山形県の環境を守ってまいります。



水や土の安心を守っています!

空気や川、海、土などにダイオキシンなどの有害物質が含まれていないか、分析装置を使って徹底的に調べます。



マイクロプラスチックってなあに?

川や海などに漂う5ミリ以下のプラスチックごみのこと。魚や動物が食べてしまうと消化できなくて死んでしまうことも。センターでは、最上川の調査をしています。



クマや植物などの調査

クマの生息数の増減や、クマのえさとなるブナ・ナラなどの実の状況、山岳や周辺の里山地域の動植物や昆虫の調査も行っています。



科学実験などの体験教室もおまかせ!

毎年6月に開催される、親子で楽しむ環境科学体験イベントのほか、学校や一般向けの環境学習の受け入れなども行っています。

